

永住外国人に対する地方参政権付与に慎重な対応を求める意見書

我が国には、永住権を持つ外国人が約91万人生活しており、地域に密接な関係を持つにいたっていることから、これら外国人に対し地方公共団体の意思決定に参加させるべきであるとして、しばしば永住外国人に対する地方参政権付与について議論がなされてきたところです。

しかし、日本国憲法は、第15条において、「公務員を選定し、及びこれを罷免することは、国民固有の権利である」と規定し、また、第93条第2項において、「地方公共団体の長、その議会の議員及び法律の定めるその他の吏員は、その地方公共団体の住民が、直接これを選挙する」と規定しており、さらに、同項中の「住民」の解釈として、平成7年2月28日の最高裁判所判例は、「住民とは地方公共団体の区域内に住所を有する日本国民を意味する者と解するのが相当である」としている。

一方、国籍法は第4条において、「外国人は、帰化によって日本の国籍を取得することができる」と規定している。

また、平成10年以降の帰化許可者は毎年1万3,000人から1万7,000人の間で推移している。

以上のことから、永住外国人が憲法に基づく参政権を取得するためには、この国籍法に定める帰化によるべきものと考えらる。

よって、国におかれては、永住外国人に対する地方参政権付与に関する法律を制定するに当たっては慎重に対応されるよう要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年6月25日

岐阜県郡上市議会

提出先

衆議院議長 参議院議長

内閣総理大臣

総務大臣 法務大臣 外務大臣